

ニュースレター

# いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局  
西表森林環境保全ふれあいセンター  
平成20年2月発行 NO:11号



ギョボク

## 地域活動グループの希少種「ゴバンノアシ」植樹会を支援

1月27日(日)に、NPO法人おきなわ環境クラブ及び古見エコクラブ「キバリヨー・ファーマー」が行った、環境省レッドリスト A類に指定された貴重な郷土の樹種であるゴバンノアシの植樹会を、森林環境教育の一環として西表森林環境保全ふれあいセンターで支援しました。

当日はあいにくの雨のため、公民館でゴバンノアシの説明と植樹について話をした後、西表島の古見集落内のバギナカー園地に合羽を着て集まり、全員で植樹する穴を掘り、丁寧に植樹をしました。

当センターは、これまで古見エコクラブ「キバリヨー・ファーマー」からの協力要請を受け、希少種ゴバンノアシの育成を(独)森林総合研究所林木育種センター西表熱帯林育種技術園に協力依頼していました。西表島にはゴバンノアシの自生地は現在見あらず、幼木が数カ所に点在するのみとなっています。

このことから、植樹会では、ゴバンノアシの苗木2本と、同じく希少種であるタシロマメの苗木2本の植栽も同時に行いました。

子供たちは、さっそく植樹した苗木の根元径や樹高を測って記録していました。今後、定期的に測定し成長を記録することになっているそうです。



植樹するゴバンノアシについて説明



ゴバンノアシを植樹

NPO法人おきなわ環境クラブ及び古見エコクラブ「キバリヨー・ファーマー」は、地域の自然と環境に対して、子供と大人が共通の体験及びその回復と保全を目指した実践活動を、互いのふれあいと自然環境についての理解を深める活動を展開しています。



タシロマメの成長記録測定

## 平成19年度沖縄地区自然再生担当者会議に出席

1月25日(金)に、平成19年度沖縄地区自然再生担当者会議が、豊見城市の環境省漫湖水鳥・湿地センターで開催されました。

各機関における自然再生に係る取り組み状況、今後の展開について報告がなされ、それらに係る質疑応答を行いました。

今後とも、共通する課題についての認識を新たにして、連携を密にすることとして会議を終了しました。



## 仲間川マングローブ林、船浦ニッパヤシ及び 浦内川オヒルギのモニタリングを実施

12月5日(水)は日本最大の仲間川マングローブ林、6日(木)は西表島にしか分布しない船浦ニッパヤシ、7日(金)は巨樹・巨木百選に選ばれている浦内川オヒルギと、3箇所のモニタリングをそれぞれ実施しましたが、疲れた身体に鞭打つての強行軍の調査となりました。

3箇所の調査対象種とも、台風13号・15号(平成19年9月・10月)被害の爪跡が大きく樹勢不良の箇所も見受けられましたが、これからの気候は強烈な日照りも少なく、かつ降雨も多いことから徐々に回復に向かうものと見込まれます。



ニッパヤシの調査



マングローブ林調査



巨樹・巨木のオヒルギ調査

## 第6回石西礁湖自然再生協議会へ出席

12月15日(土)、第6回石西礁湖自然再生協議会が開催されました。

同協議会は、自然再生法に基づき石西礁湖の自然再生を推進するため、必要となる事項を協議することを目的としています。

事前学習として、今年夏期における石垣島・西表島周辺海域珊瑚の白化状況と、そのメカニズムについての説明等がありました。

協議は、陸域対策(赤土・生活排水等の流入対策)、普及啓発(サンゴ礁保全の意識向上・広報啓発)、資金メカニズム(募金等の活動)の、3項目をテーマにグループディスカッションを行い、石西礁湖の望ましい将来を見据えた生態系の保全・再生のあり方など、有意義な意見交換が行われ建設的な会議となりました。



上空からみた白化の様子

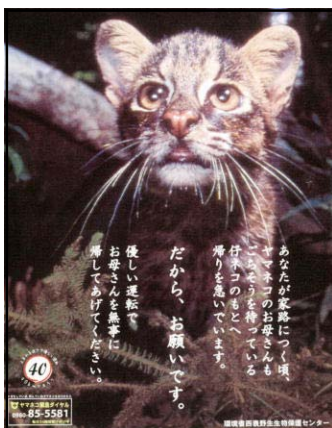
2007/12/15  
第6回 石西礁湖自然再生協議会

米原冲上空 2007/8/23 撮影

## 平成19年度野生生物保護対策検討会の「 イリオモテヤマネコ保護増殖分科会(西表島)」に出席

12月6日(木)、琉球大学等の研究員、環境省、林野庁、沖縄県、竹富町及びNPO法人等の関係者が参加してイリオモテヤマネコ保護増殖分科会が開催されました。

事務局の環境省から、イリオモテヤマネコ保護増殖事業の実施状況及び平成17年度から3カ年間計画で実施してきたイリオモテヤマネコ生息状況等総合調査(第4次)の経過報告等がありました。



その、主な内容は、保護増殖事業としては自動撮影カメラを使用した位置的個体数の確認、保護対策(交通事故の抑制策)としては道路にアンダーパスの設置(ネコの抜け道)及び広報用チラシの配布、外来生物対策としてはノネコの捕獲、島外搬出、生息状況等総合調査(第4次)としては個体数の分布と動向の把握・過去10年間のモニタリング事業の評価を行い今後の基礎資料の作成を行う等の説明でした。

また、過去30年間で43件の交通事故が発生していることから、事故に遭遇された方は事故状況等をヤマネコ緊急ダイヤルまでご一報をお願いしますとの要請がありました。

## 平成19年度ヒナイ川・西田川の利用状況調査(12・1月分)報告



12月期の利用状況調査を、ヒナイ川13日(木)、西田川14日(金)にそれぞれ実施しましたが、シーズンオフなのか両箇所とも今年度最も少ない利用状況でした。調査結果は、ヒナイ川では、カヌーツアーは2組(9名(ガイド含む))登山コースで訪れたトレッキングツアーが1組(4名(ガイド含む))の計3組(13名)となりました。西田川は、カヌーツアーが1組(3名(ガイド含む))のみで



した。

また、平成20年1月期のヒナイ川利用状況調査を18日(金)実施しました。今年初めての調査でしたが、最低だった12月期よりも少ない利用状況でした。結果は、カヌーツアーが2組(7名(ガイド含む))のみでした。訪れたツアー客は2組とも「ピナイサーラの滝」の上と滝壺を巡り西表島の大自然をゆっくり堪能された様でした。

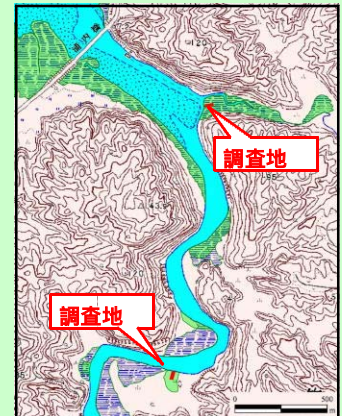
西表島では、冬期の間でも20度を超える温暖な日もあり、関東・関西方面から訪れたカヌーツアー客が西表島の河川でカヌー体験など楽しんでいます。良き思い出を残し、リピーターとして再度来島されることを期待したいものです。

## 浦内川マングローブ林モニタリングの経過報告

浦内川は、沖縄県最長の河川であり、上流からの土砂の主要な堆積域は河口域となっています。その干潟が広がる中でも潮間帯上半部の限られた立地にマングローブ林が発達しています。浦内川のマングローブ林は、同じ西表島の東部を流れる仲間川の日本最大のマングローブ林に次ぐ面積です。

浦内川のマングローブ林分布は、浦内橋上流では、その大部分は曲流する河川の滑走斜面やポイントバー(小さな砂州)などにパッチ状に点在し小規模に発達しているほか、ウタラ川河口などのように支流が合流し小さなデルタ状の堆積が見られる立地では、小規模な河口型のマングローブ林の発達も見られます。

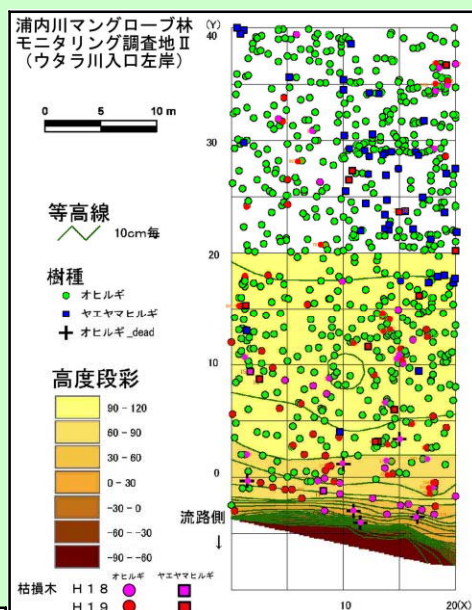
浦内川のマングローブ林倒木被害については、H17に「浦内川マングローブ林被害防止対策調査」を実施するとともに、それを受けて2調査区にコドラートを設けモニタリング調査を実施しています。



H17~19年の調査結果で調査地は、風の影響が少なく、かつ流心が直線のため遊覧船の引き波の影響が少なかったものと思われ、胸高直径、樹高及び枯損状況のいずれにおいても大きな変化は見られませんでした。

調査地は、河岸5m付近の枯損被害は、遊覧船による流心の洗掘及び引き波による地盤高が変化したこと、及び、平成18年の13号、平成19年の12号、15号と猛烈な台風の襲来により海側から直進する風の影響が大きく倒木が多かったものと思われ。

このため、胸高直径、樹高の大きな変化は見られないものの、枯損状況は河岸から10mの部分で全枯損本数の53%と大きな被害を生じ、それも河岸は倒木が主体となっています。内陸にかけての枯損被害は、台風等の風による、幹折れ、枝折れ等による被害となっています。



# 西表島の樹木

今回は、汽水域に生育する植物を掲載します。

**メヒルギ(Kandelia candel (L.) Druce) 別名: リュウキュウコウガイ**

**科: ヒルギ科 Rhizophoraceae 属: メヒルギ属 Kandelia**

**分布は**、九州(鹿児島県)、種子島、屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島、台湾、中国南部、東南アジア、南アジアなどの、熱帯から亜熱帯の汽水域に広く分布する。

**生態は**、汽水域の湿地に成立するマングローブ林(日本では7種)を構成する代表的樹種の1つで「紅樹林」とも呼ばれ、マングローブ林の海寄りに生育する常緑高木で、東南アジアでは樹高15m前後になるが、国内では7~8m程度の樹高にしかならない。西表島ではまとまった群落になることは少なく、単木状か小規模な群落しか見られない。メヒルギは世界で最も北に分布するマングローブ植物で、鹿児島県喜入町のメヒルギ群落が最北のマングローブ林とされている。

**形態は**、木肌はずいぶん赤みがかった灰褐色をなし、小片となって剥離する。小さな枝をたくさんだし樹冠に葉をつける。

**葉は**、対生、長楕円形で長さ7~10cmほどで、オヒルギなどと比べ若干小さく貧弱である。葉の先端は丸みをおび革質で光沢がある。

**根は**、メヒルギは支柱根がないかわりに、幹の根元が広がって板根状になる。

**花は**、6~8月ごろが開花期で白い5花弁を上に向け大きく開いて咲かせる。二又分岐する腋生の集散花序は10個前後の花をつけ、各花の基部には苞がある。萼は5裂、裂片は披針形で長さ1~1.5cmぐらいで、花弁は5個で白色、長さ1~1.5cmで2裂し、裂片の先端はさらに糸状に細裂する。雄ずいは多数で花糸は細長い。

**果実は**、2月頃になると果皮が茶褐色になり、翌年6月ごろが熟果期である。マングローブの特徴の一種でもある胎生種子(木に付いたまま果実の中で発芽)で、反り返った宿存萼をつけたまま緑色で細長く長さ10cmの棍棒状の長い胚軸をのび



メヒルギ



メヒルギ葉と花



胎生種子

し、落下して泥地に刺さって定着する。また海流によって遠くまで運ばれ定着することもあると言われている。従って、種子ではなく苗で繁殖するのである。

**別名の**、「リュウキュウコウガイ」はこの胎生種子の形から付いた。「コウガイ」とはかんざしのことである。

**用途は**、かつては、樹皮を染料に用いた。

## 石垣島「荒川のカンヒザクラ自生地」の開花情報

国の天然記念物に指定されている「荒川のカンヒザクラ自生地」は、ガジュマル、アコウ、スダジイ、コバンモチ等の常緑樹と、クロツグ、クロヘゴ、ヒリュウシダ、コシダなどの下層植生が生い茂る登山道を登ること約30分、荒川上流の谷間にあります。

カンヒザクラは、ヒカゲヘゴとともに7~8本が点在し生育しているのが確認できました。



1月30日の開花状況は、登山道の近くの木はもう満開に近い状態で、花は2月中旬頃までは見られるのではないかと思います。亜熱帯林の中に淡いピンク色を呈した花を見つけたときはまさに感動の一瞬でした。桜の木の下で撮影していると、リュウキュウメジロがやって来て盛んに花の蜜を吸っては私を楽しませてくれました。(遠山)



林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>